

シナの木と白い家

正会員 高橋真紀君

正会員 潮上大輔君

平坦な風景の中にずっと立つ、白い縦長のプロポーションは、際立った存在でありながら、周囲の住宅とのボリュームとしての類似と、周辺からの外装素材の参照などから、調和も感じられた。

明快な骨格を持った建物である。親しみやすいスケールの構造体が、都市との関係を調整するスリット、3層それぞれの空間の質に関わる階高設定、細長く独特な吹き抜けとそこに浮かぶ家具など、複層的なテーマに関わり、それらを束ねている。

一本の木のような構造、という説明は、形態の話として受け取ると、比喩的にすぎるようにも感じられる。しかし、骨格にまわりつく様々なストーリーが、幹から伸び、様々な実をつける枝として理解できた時に、ずっと腑に落ちる。

見慣れた建材にすぎないはずのシナ合板が、この住宅では、外部に植えられたシナの木との関連で、成長やライフサイクルといった大きな時間を連想させる。緻密な論理と、詩的な想像力が同居する優れた作品。

(「作品選集 2013」選評より)